【報道関係各位】

タバコに関する意識調査

禁煙治療への保険適用　賛成 71%
禁煙しようと思う時　トップは「お金の無駄だと思った時」45%
禁煙成功の心得は「3 度目の正直」　成功者の平均禁煙チャレンジ回数 2.3 回

2006 年 5 月 29 日
株式会社マクロミル
（証券コード:東証一部 3730）

株式会社マクロミル（本社：東京都港区、社長：福羽泰紀）は、全国 20 歳以上の男女を対象に、「タバコに関する意識調査」を実施いたしました。調査手法はインターネットリサーチ。調査期間 2006 年 5 月 18 日（木）～5 月 19 日（金）。有効回答数は 1032 名から得られました（男女および喫煙者・非喫煙者の割合は各半数ずつ）。

【調査結果概要】

【1】禁煙治療への保険適用　賛成 71%

2006 年 4 月から禁煙治療が公的医療保険の給付対象になったことについて、71%の人が「賛成」（賛成＋どちらかといえば賛成）と回答しました。賛成側の意見として「喫煙は病気だと思うから」「今後の医療費を削減できそう」「喫煙を止めるきっかけになればいい」が多く、喫煙の歯止めとなるきっかけに保険適用が有効活用されそうです。

【2】禁煙しようと思う時　トップは「お金の無駄だと思った時」45%

過去禁煙にチャレンジしたことがある人に、禁煙しようと思うのはどんな時か尋ねたところ、トップは「お金の無駄だと思った時」（45%）でした。男女別に見ると、男性のトップは「お金の無駄だと思った時」（46%）、次いで「体力の衰えを感じた時」（33%）、女性のトップは「妊娠した・子供ができた時」（53%）、次いで「お金の無駄だと思った時」（43%）となりました。コストに対する意識は男女共通ですが、特に男性は体力問題、女性は妊娠・出産が禁煙への大きなきっかけとなっているようです。

【3】禁煙成功の心得は「3 度目の正直」成功者の平均禁煙チャレンジ回数 2.3 回

禁煙成功者に、何度目のチャレンジで禁煙に成功したのか回数を尋ねたところ、平均 2.3 回という結果になりました。半数以上の人は「1 回目」（56%）で禁煙に成功したと回答。チャレンジ 3 回目までで約 9 割の人は禁煙に成功したと回答しており、禁煙成功の心得は「3 度目の正直」であることが分かりました。

【4】タバコを吸い始めたきっかけ　2 人に 1 人は「友達」

喫煙者に、吸い始めたきっかけとして影響を受けた人・モノを尋ねたところ、2 人に 1 人が「友達」（53%）からの影響を受けたと回答しました。

《本件に関するお問い合わせ先》 株式会社マクロミル　経営管理本部　広報・IR チーム　担当：西沢・三井　TEL 03-6716-0707　press@macromill.com

「タバコに関する意識調査」

【調査結果詳細】

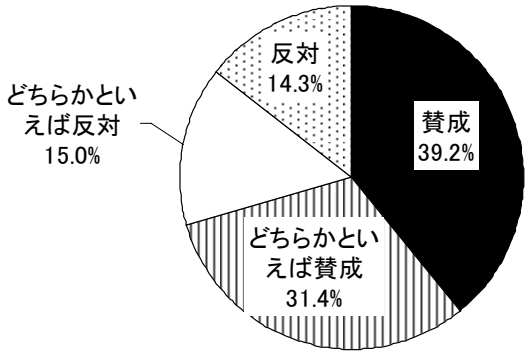
■調査概要

調査方法：	インターネットリサーチ			
調査地域：	全国			
調査対象：	20 歳以上のマクロミルモニタ会員			
有効回答数：	計 1032 サンプル（下記の通り均等割付、回収）			
	喫煙者：男性	258 サンプル	非喫煙者：男性	258 サンプル
	喫煙者：女性	258 サンプル	非喫煙者：女性	258 サンプル
調査日時：	2006 年 5 月 18 日（木）～5 月 19 日（金）			
調査機関：	株式会社マクロミル			

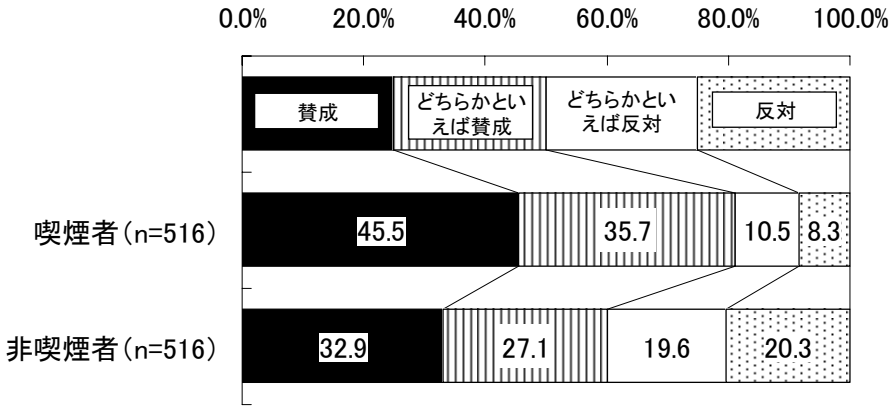
■　禁煙治療への保険適用　賛成 71%

2006 年 4 月から禁煙治療が公的医療保険の給付対象になったことについて、71%の人が「賛成」（賛成＋どちらかといえば賛成）と回答しました。

Q. あなたは、禁煙治療に保険が適用されることについてどう思いますか？（単一回答）
＜ベース＞　全員（n=1032）



喫煙者、非喫煙者別に見たところ、賛成（賛成＋どちらかといえば賛成）は喫煙者 81%、非喫煙者は 60%という結果になりました。非喫煙者では賛成の比率が低くなるものの、過半数以上は賛成と答えており、喫煙者・非喫煙者ともに、保険適用は喫煙者を減らすある程度有効的な方法として見ているようです。



■　喫煙は病気か？　個人の意志の問題か？

公的保険適用に賛成側としては「喫煙は病気だと思うから」「今後の医療費を削減できそう」「喫煙を止めるきっかけになればいい」という意見が上がっており、反対意見としては「個人の問題なのに保険適用はおかしい」「嗜好品なのに税金を使うのは納得できない」が多く上がっていました。
喫煙を病気と見るか、個人の意志の問題と見るかにより賛否が分かれているようです。

＜賛成＞の理由

＜自由回答より一部抜粋＞

	喫煙者／非喫煙者	性別	年齢	職業	地域
・喫煙は一種の習慣病だと思うから	喫煙者	男性	55	公務員	愛知県
・禁煙は他の病気の予防治療といえるから	喫煙者	女性	28	会社員	北海道
・今後肺癌が減少するためにも禁煙治療に保険が適用されるのはよいと思う	喫煙者	女性	49	専業主婦	東京都
・タバコの依存症は病気だから	非喫煙者	男性	33	会社員	三重県
・肺癌などになって治療費が上がると、保険料もあがりそうだから	非喫煙者	女性	32	パート・アルバイト	奈良県

＜反対＞の理由

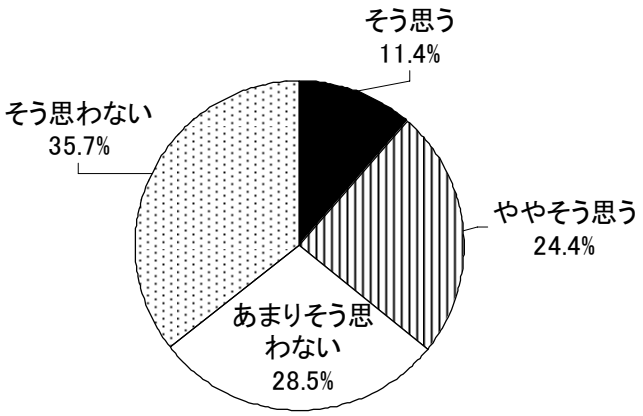
＜自由回答より一部抜粋＞

	喫煙者／非喫煙者	性別	年齢	職業	地域
・禁煙は個人の問題で、やめるために公的資金を使うべきではない	喫煙者	男性	46	会社員	神奈川県
・一部の喫煙者だけのために公的な保険を適用するのは不公平感が強い	喫煙者	男性	41	自営業	愛知県
・タバコは嗜好品。それをやめるのは本人の意志であって保険ではないはず	非喫煙者	女性	48	パート・アルバイト	鹿児島県
・タバコの害は昔から分かっているのに、吸い続けて健康を害するのは自己責任	非喫煙者	男性	34	会社員	京都府
・保険の対象とするなら、身体に害をもたらすタバコ自体の販売を禁止してほしい	非喫煙者	女性	42	パート・アルバイト	神奈川県

■　保険を適用して禁煙しようと思う　36%

喫煙者に保険を適用して実際に禁煙しようと思うか尋ねたところ、36%の人が「そう思う」（そう思う＋ややそう思う）と回答しました。3 人に 1 人は利用意向があることが分かり、禁煙治療への公的医療保険適用は禁煙の一助となりそうです。

Q. あなたは、保険を適用して禁煙しようと思いますか？（単一回答）
＜ベース＞　喫煙者（n=516）

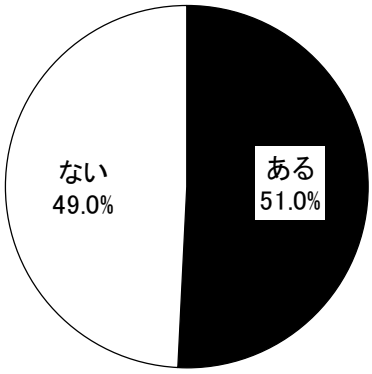


■　禁煙しようと思う時　トップは「お金の無駄だと思った時」　45%

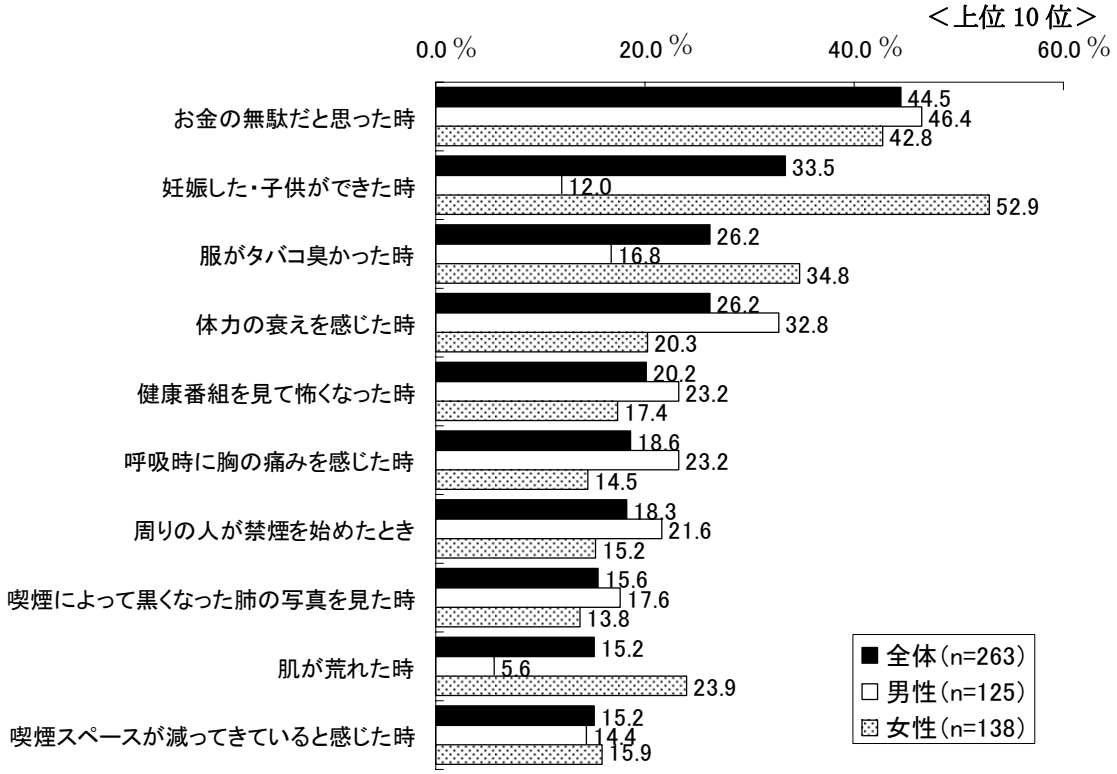
現在喫煙している人に、過去禁煙にチャレンジしたことがあるかを尋ねたところ、約半数の 51%の人が「ある」と回答しました。

禁煙にチャレンジしたことがある人に、禁煙しようと思うのはどんな時か尋ねたところ、トップは「お金の無駄だと思った時」（45%）でした。男女別に見ると、男性のトップは「お金の無駄だと思った時」（46%）、次いで「体力の衰えを感じた時」（33%）、女性のトップは「妊娠した・子供ができた時」（53%）、次いで「お金の無駄だと思った時」（43%）となりました。コストに対する意識は男女共通ですが、特に男性は体力問題、女性は妊娠・出産が禁煙への大きなきっかけとなるようです。

Q. あなたは過去、禁煙にチャレンジしたことがありますか？（単一回答）
＜ベース＞　喫煙者（n=516）



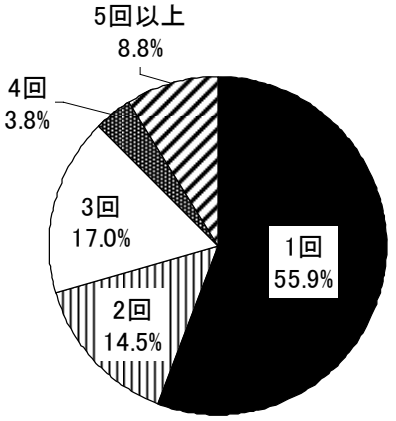
Q. あなたが禁煙しようと思うのはどのような時ですか？（複数回答）
＜ベース＞　喫煙者で、過去禁煙にチャレンジしたことがある人（n=263）



■　禁煙成功の心得は「3 度目の正直」　成功者の平均禁煙チャレンジ回数 2.3 回

禁煙成功者に、何度目のチャレンジで禁煙に成功したのか回数を尋ねたところ、平均 2.3 回という結果になりました。半数以上の人は「1 回目」（56%）で禁煙に成功したと回答。チャレンジ 3 回目までで約 9 割の人は禁煙に成功したと回答しており、禁煙成功の心得は「3 度目の正直」であることが分かりました。

Q. あなたは何回目のチャレンジで禁煙に成功しましたか？（数値回答）
＜ベース＞　現在非喫煙者で、過去習慣的にタバコを吸っていた人（n=159）

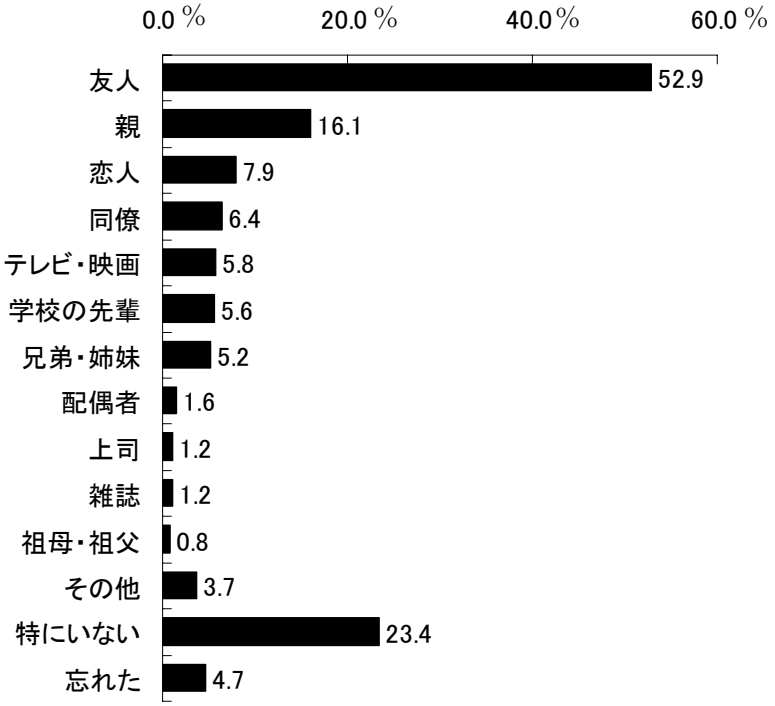


平均　2.3回

■　タバコを吸い始めたきっかけ　2 人に 1 人は「友達」

喫煙者に、吸い始めたきっかけとして影響を受けた人・モノを尋ねたところ 2 人に 1 人が「友達」（53%）からの影響を受けたと回答しました。

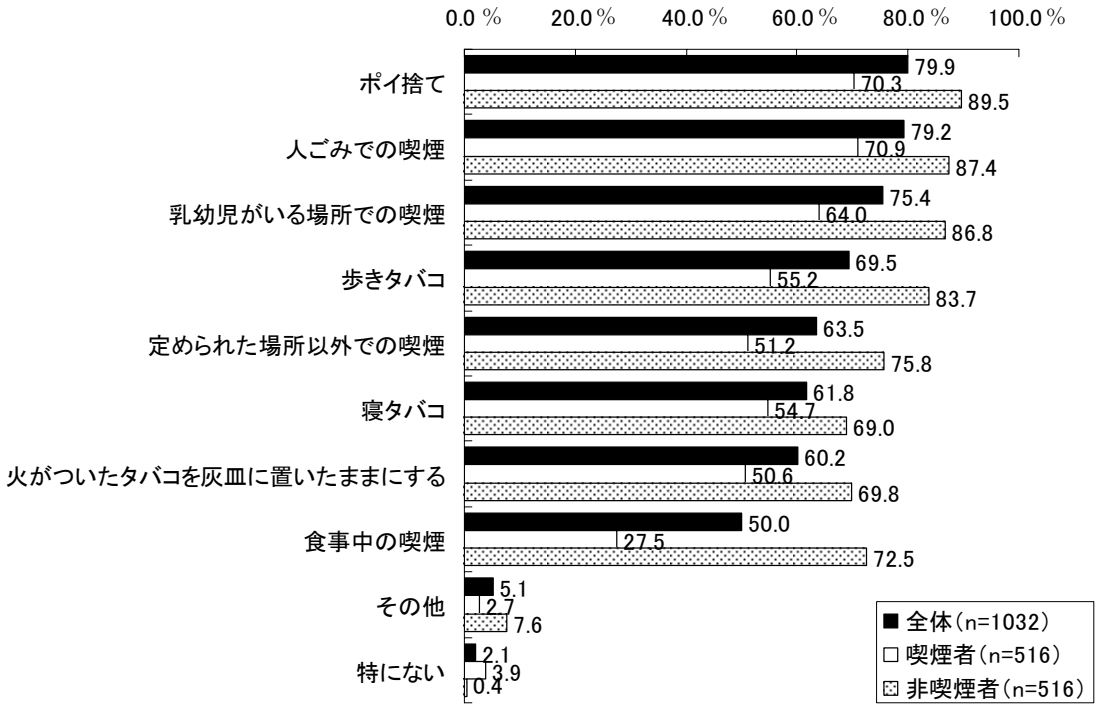
Q. タバコを吸い始めたきっかけとして、あなたが影響を受けた人・モノをお選び下さい。（複数回答）
＜ベース＞　喫煙者（n=516）



■　我慢できない喫煙マナー違反　トップは「ポイ捨て」80%

我慢できない喫煙マナー違反を尋ねたところ、トップは「ポイ捨て」(80%)、次いで「人ごみでの喫煙」(79%)、「乳幼児がいる場所での喫煙」(75%) という結果になりました。喫煙者、非喫煙者別に見たところ、いずれも 15 ポイント以上の差があり、喫煙マナーについて大きな意識の乖離が見られました。

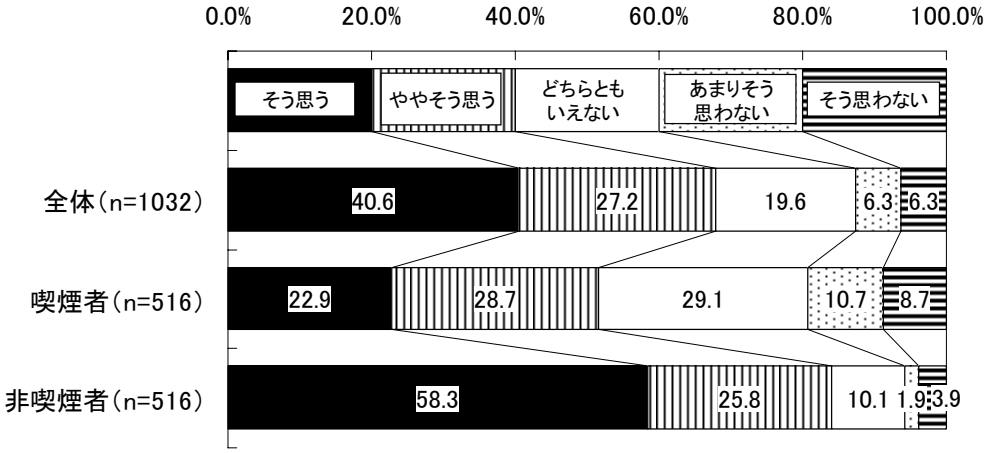
Q. あなたが我慢できない喫煙マナー違反はどれですか？(複数回答)
＜ベース＞　全員(n=1032)



■　喫煙マナー違反にはもっと厳しい罰則を適用したほうがいいと思う　68%

喫煙マナー違反にはもっと厳しい罰則を適用したほうがいいと思うか尋ねたところ、約 7 割の人が「そう思う」(そう思う＋ややそう思う) と回答しました。喫煙者・非喫煙者別に見ると、喫煙者は 52%と半数程度ですが、非喫煙者は 8 割以上の人が「そう思う」(同上) と回答しました。喫煙マナー違反には厳しい目が注がれているようです。

Q. 喫煙マナー違反には、もっと厳しい罰則を適用した方がいいと思いますか？(単一回答)
＜ベース＞　全員(n=1032)



【　株式会社マクロミル　会社概要　】

株式会社マクロミルは、独自開発した自動インターネットリサーチシステム【AIRs】(Automatic Internet Research System :エアーズ) を活用し、さまざまな企業の商品やサービス等に対する消費者の声をインターネットで瞬時に集めるネットリサーチのリーディングカンパニーです。国内 42 万人を超える消費者モニタ会員を対象に低価格・迅速なネットリサーチを提供する「QuickMill」を主力サービスに、携帯電話を活用したモバイルリサーチ「MobileMill」、世界各国の消費者を対象にした海外市場調査「GlobalMill」など様々なマーケティングリサーチサービスを展開しています。

社名	■株式会社マクロミル
本社	■東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー11F　〒108-0075
ＵＲＬ	■www.macromill.com
設立	■2000 年 1 月 31 日
資本金	■8 億 9,210 万円　　※2005 年 12 月末現在
上場取引所	■東証一部　(　証券コード：3730　)
代表者	■代表取締役社長 COO　福羽　泰紀
従業員数	■146 名　（うち、契約社員 12 名）　※2006 年 4 月末現在
事業内容	■インターネットを活用した市場調査（ネットリサーチ）

――― 本件に関するお問い合わせ先 ―――

株式会社マクロミル　広報担当：西沢・三井
東京都港区港南 2-16-1　品川イーストワンタワー11F　〒108-0075
TEL:03-6716-0707　FAX:03-6716-0701　E-mail:press@macromill.com

《　引用･転載時のクレジット表記のお願い　》

本リリースの引用・転載の際は、必ずクレジットを明記していただきますようお願い申し上げます。
＜例＞「インターネット調査会社のマクロミルが実施した調査結果によると･･･」